

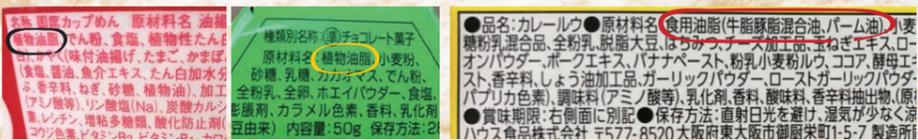
守ろう!

アジアの熱帯林 動物たちの未来

パーム油って何？



私たちに身近なさまざまな食品や日用品に使用されている油、それがパーム油です。世界で一番多く使われている植物油ですが、食品の原材料名では、「植物油脂」や「加工油脂」「ショートニング」などと表示されることがほとんどなので、私たちがパーム油の存在を知る機会はありません。



ありとあらゆる食品に使われているパーム油ですが、普段私たちが知らずに買った食べたりしている一方で、生産地には大きな影響を与えています。

パーム油の何が問題なの？

パーム油の原料であるアブラヤシが栽培できるのは、熱帯地域に限られています。過去30年間、スマトラ島やボルネオ島ではアブラヤシ農園が急激に広がり、熱帯林が激減。もともとすんでいたオランウータンや、スマトラトラ、マレーバクやウンピョウなど、野生動物のすみかが奪われ絶滅が心配されています。



アブラヤシ農園の為にもともとあった森を切り拓いて造成された土地

アブラヤシの木

アブラヤシの実

森というすみかを失った野生動物が、人の生活する地域に出てきてしまうことも珍しくなく、人が直接殺されてしまうこと、逆に野生動物が殺されてしまうことも日常的に起きています。



オランウータン
過去100年間で80%減少



スマトラトラ
残された個体数約400頭

農園を作るために、火を放ち、焼き払うこともあり、乾季には大規模な火災が頻発。その煙害が隣国にまで広がるほどの国際問題になっています。つまりパーム油の生産が温暖化を加速させる原因にもなっているのです。他にも、農園では強制労働や児童労働などで苦しい思いをしている人々がいることも報告されています。

80%以上は
食品に使用

パーム油を使うのをやめたらいいの？

私たちの想像する以上に、パーム油は生活のありとあらゆる場面で使われています。ここまで暮らしに密接なパーム油の使用をやめる、というのは現実的ではありません。

また、アブラヤシは一番たくさんの油が採れる植物なので、代替りの油を使うとすると、今よりもっと多くの新しい土地が必要です。根本的な問題は、パーム油そのものではなく、アブラヤシを植えている地域にあります。熱帯林を保全しながらパーム油が生産できれば、問題も解決につながるはずで。



RSPO 森や生きものたちを守るマーク

RSPO は森林や野生生物、また農園で働く人や、地域の人のことも考えて生産されているパーム油だけにつく認証マークです。このマークのついた製品を選ぶことは、森の破壊を防ぎ、生きものたちのすみかや、命を守ることに繋がります。



RSPO がつくる「ルール」の例

- ・原生林や、生きものがたくさんいる森を伐らない
- ・農園をつくるために、火を使わない
- ・人の土地を勝手に奪わない
- ・働く人が、安全に健康に働けるようにする
- ・子供を働かせない



日本の製品に表示されたRSPOマーク

今日からできること

今、ヨーロッパ各国からは2020年までに使用するパーム油を100%問題のないパーム油に切り替えることを目指した宣言がなされています。

イギリスでは既に2014年の時点で最大94%が認証油に!



日本でも洗剤や化粧品メーカーが取り組みを始めている一方で、スーパーでRSPOの食品を頻繁に目にするのはあまりありません。でも私たちが、エージェントとして生産地の環境や社会的な状況を変えてゆくことができるのです。例えば…

- 見る… パーム油や植物油が使われているか興味を持って成分表示を見てみる
- 選ぶ… RSPOマークのついた製品を使うようにすること
- 変えてゆく… メーカーや小売業者の窓口へ、消費者の声を届けていく

**森の破壊を防ぎ、
未来の動物たちを守るパームの実を育てるべく、
エージェントとしてのリアルミッション開始です!**